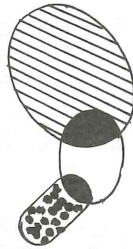


神奈川県演劇連盟機関誌

ドラマ神奈川

第9号



「ゴジラがやってきた！」

劇団 蒼生樹
濱田重行

3年目にして、横浜アマ連演の合同公演が実現した。戦後すぐ活動を始めた劇団から、まだ10年余りの劇団まで、5劇団はそれぞれ珠玉の輝きを発してはいても、5つの珠玉が集まることはなかった。この玉が一同に集まると奇跡が起ころ、玉から目が眩むような光が放たれる——はずだった。

5つの玉は集まったが、波長が干渉しあってしまったのか、奇跡は起こらない。玉はそろっているはずなのに、横にらみの状態ばかりが続く。先走りする役者も困るが、掛かりが遅い役者はもっと困る。週2回、1と月の稽古で仕上げるつもりが、いつしか木曜日から月曜日までの連続稽古が始まった。そればかりか、放課後と称する課外授業は夜中の二時三時まで続き、すべてにつきあう演出の稽古はぶっ通し14時間にも及んだ。

それでも「ゴジラ」は動かない。怒鳴る、笑わず、厳しく突き放し、優しく引き込む、稽古方法まで変え、ころころと変身するウルトラマン演出。さすがに演出も力尽き、タイマーが点滅し始めた頃、やっと「ゴジラ」がムクムクとその巨体を起こしてきた。役者と裏方の気持ちが合体して、迫力のある芝居になってきた。みんなの疲れがピークに達した頃、本番を迎えた。本番の妙、舞台では役者も裏方も縦横に躍っている。

劇団の創作方法に違いはあっても、お客様に見ていただくことには変わりない。劇団の事情を多く抱えての公演だったが、若い人たちが他劇団と交流し、触発しあって新たな力が生まれてきた。「ゴジラ」は一回り大きくなって、力強い一歩を踏み出した。

公演スケジュール 1月~3月

横浜いろいろ演劇講座 1/17(金)ワークショップ『蛸道場』18(土)藤生ゆかり歌唱指導19(日)ボイストレーニング・トークライブ『2000年の横浜演劇』方法論を探る。以上主管/劇★派事務所 1/20(月)21(火)27(月)28(火)29(水)/パントマイム・ワークショップ『むごん劇かんぱにい・と共に』。以上主管/劇団河童座。

劇★派事務所 2/3(月)4(火)共に7:00 相鉄本多劇場 西濱裸/作 祭山寸花/演出『回折格子』

劇団葡萄座 3/1(土)2:00&6:30 2(日)2:00 関内大ホール 『11匹のネコ』

横浜小劇場 3/22(土)2:00&6:30 23(日)2:00 関内小ホール 三島由紀夫/作 『サド侯爵夫人』

川崎演劇まつり 3月下旬
・京浜協同劇団/川崎幸文化センター
・劇団行動座/川崎中原市民館

実現したよ!

県演連プロデュース公演

劇団 劇★派 祭山寸花

「オイ、オイ、本当にやれるのかい!?!」で始まった、今回のテント劇場。横浜の文明発展の最後の拠り所とも言えるべき『赤レンガ倉庫群』。そこで芝居ができる、と色めきたった私たちであったが、この企画が現実のものとなるまでに、何んと様々な曲折があったことか……。赤レンガ倉庫が、いつの間にかMM21地区になり、ともかく、「赤レンガ倉庫地区の文化的活用」という未来へつなげる第1歩として、そのMM21地区での公演が建ちあがった。「横浜アートライブ'96」である。

で、次の難関が「県演連プロデュース公演」という訳である。県演連が活動を再活性化し始めてまだ日が浅いというのに、果して、連盟全体を統括する様な公演が打てるのだろうか!?! それに、県の潜在的な要求を満たす、連盟に結集する以外の、S Tスポットや相鉄本多劇場で公演活動をする神奈川の劇団をも大同団結したものととして——。

11月4日、木枯し第二陣が吹き過ぎる寒風の中、ともかく幕は開くのだろう。このコメントが、皆様のお目に触れる頃、その結果も当然明らかになっている。

スタッフ、キャスト、当日のお手伝い等々総勢約30名が奮闘したのは事実だし、プロの人からド素人まで、はたまた、芝居の作り方も様々に違う人たちが一同に介したのも事実だ。そして何よりも、「神奈川県演連プロデュース公演」が実現したのも、事実だ。

ホット ニュース

この秋よこすかは 演劇祭で埋まった

□三浦半島演

劇団蒼い群

「海と人と街 すべてがステージそしてドラマ」このキャッチコピーで今年の三浦半島演劇祭96はスタートした。

横須賀青少年会館がなくなるって!?

そんなニュースが飛び込んだのが95年12月。今日のよこすかの演劇仲間にとって、まさに自分達を育ててくれた会館が廃館の憂き目にあっているという。

「どんな形でもホールだけは残さなくては。その思いをこの演劇祭にぶつけていこう」

横須賀アマチュア演劇連盟が中心となり、会館は基より高校演劇連盟や、三浦半島圏内で活動している劇団にも協力要請をし、さらには、神奈川県演劇連盟の後援もいただき、神奈川県演劇フェスティバル、第49回横須賀市民文化祭参加行事としてシンポジウム、ワークショップ、

そして、9劇団と11高校による本祭の実施となった。

特に、相模原市で活躍するT. U. H. 相鉄本多が拠点の劇団横濱にゆうくりあには趣旨に快く応じていただいた。

演劇祭そのものは昨年までのよこすか演劇フェスティバルとして8年の歴史と、昨年からの横須賀青少年会館の深いご理解、ご協力による横須賀三浦地区高校演劇連盟とのタイアップの実現という形でのグレードアップにつながる。

この秋の青少年会館の様子を見よう。

9月の土・日曜日の会議室はシンポジウム、ワークショップで埋まり、10月から12月までのホールは殆ど毎週土・日さらに祝祭日までが、必ずといってよいほど演劇公演で埋まるという状況となった。他のサークルにはご迷惑をおかけしてい

るが、同じ会館利用仲間の仕込みやバラシ、観力添えをしていただい

こうして進められての稿がお手元に届く頃、ユールを終了し、エンでお互いの健闘を称え、キズのなめ合い(か)ホた次への取り組みを論られるが、使用料をさらに、照明や音響設し、舞台の使い勝手もこらせるホールを取り許せるものではない三浦半島演劇祭96雑感劇評は演劇祭報告書がお楽しみに。



蒼い群

「生きて想いをさしようより」

—お夏西鶴顛末記—

10/12・13

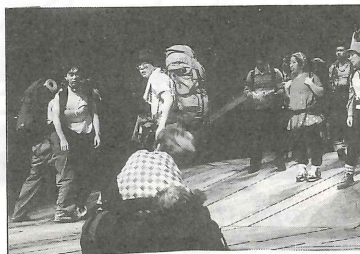
横須賀青少年会館

西鶴が、死んだ者の哀れを描いた「好色五人女」であつたが、お夏と名乗る強請まがいの老婆がたずねてきたことをきっかけに、生残った者の辛さに思いを至らせる。

有名なエピソードの裏話という趣向が面白く、また、時代物としては珍しく女性がドラマを支えていて(西鶴の身近な女性が夢のシーンで五人女に扮して勢揃いし、いわば“女の本音”コーナーになったり)、作品として大変魅力を感じた。が、舞台表現としては演ずる側の思いが伝わらない物足りなさが残った。

上方弁で書かれた脚本に忠実であろうとしたために、全般に台詞回しがごちなく、役者さんに感情移入できなかったのが大きな要因。ドラマの進行の視点役として、西鶴にはクールさ以外に懐の深さが欲しかった。全体に、ベテランの魅力的な(特に女性の)役者さんがいるのだから、実力を存分に発揮したという輝きをもっと見たかったと思う。

劇団蒼生樹 清水 泰子



京浜協同劇団

「旅★自分を探しに」

11/8・9・30 12/1・11

川崎幸文化センター

川崎麻生文化センター

横浜青少年センター

自分ではそう思っていないのに、おじさんの固定観念が強く「旅★自分を探しに」てな題名を見たとき、また若者流自己満足劇団の公演だろうと思ひ、知人が出演してるとか関係者(含むドラマ神奈川編集委員)でなかったら見に来ないだろうなど……。

ところがどっこい、まず舞台装置。シンプル イズベストでありながら見ているうちに複雑に、そして自然に心の中に溶け込んできた。キャストの自然な会話と、照明と効果に増幅されたまるでミュージカルを思わせる動き。2時間半、寝てるヒマなどありません。

のむぎOCSと言う、登校拒否の子供達を集めた実在の学校?をモデルにした物語の為か、なんとなく先の読める展開が少し気になったが、感動するところで感動できたのは演出or私が素直なのか。とにかく、この素晴らしい公演をなんと3会場6回も出来るなんて、全てのキャスト、スタッフそして応援団に“京浜協同劇団の力”を感じました。

そして最後に脚本の山本忠利氏日く『子供たちの本当の声を取り入れる為、脚本にはまだまだ手を入れる』

それで、今日の感動は明日の感動ではない……ウン。

(担当 劇団かに座)

劇祭'96の報告

ふくもと ゆきを

間のよしみ、公演客動員にも大きな、ている。

きた演劇祭も、こには、全スケジューティングパーティー合いながら（実は一ルの存続に向けじ合っていると思ほど心配せずに、備を自分達で操作思いのまま工夫が壊す手立ては断じ。存続を願いつつとしたい。なお、発行されるので、

ステージ見聞録

'96年10月〜12月



河童座

「平成火の鳥伝説」

11/16・17

横須賀青少年会館

11/30・12/1

相鉄本多劇場

創立45周年記念公演と位置づけられた、河童座としての力技を見せつけられた舞台であった。とりわけ、前半の猿島における義経伝説と父に弓打たれ、死ぬことが出来なくなった娘とのからみは面白かった。このバージョンにおける吸血鬼たちのきびきびとした動き、TV番組を撮っている人たちの軽さはこちよかった。義経のいう「さまようだけの永遠は空しい」（つまり死ぬことのできないことの苦痛）はこの芝居のテーマともいってよいセリフで、かなりの重さをもってこちらの胸に響いてくる。残念なことは、前半の練れた芝居のつくりに対して後半のち密さが足りなかったことだ。また、ラストの娘のモノローグ（実際には声との対話）はやや哲学的な部分が勝ち過ぎていた。言葉ではなく、表情や動きで語ってほしいところがあった。終演あいさつの「田浦で生まれた河童座が45年…」というところで少し胸が熱くなった。

（担当 横浜にゆうくりあ）

こゆるぎ座

「いろはにほへと」

10/26・27

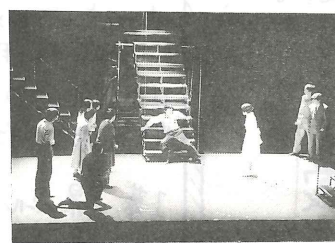
小田原市民会館



こゆるぎ座の芝居を観に小田原市民会館に足を運ぶ度に、1400名の会館がいつも満員だということに驚ろかされる。観客の年齢層は40才以上の方が70%以上を占めているようだが、劇団の歴史と地域とのつながりがそこには見てとれる。この観客たちに、地元を題材にしたドラマが時代の歪みを訴えかける。

身を苦界に沈めて弟の立身出世を願う娼妓が、頼みの弟を戦争で失い、社会の矛盾にも絶望して自らの命を絶つ話を中心に、初音新地を舞台にしたさまざまな出来事をからめて辛口の風刺を利かせながら展開していく座付作者後藤翔如氏の戯曲は見事だ。数多い登場人物を、夫々が個性を生かして役作りに努力した跡がみえ、特に若い人たちが明治の人間を演ずる難しさを何とかこなして大きな破綻をみせなかったのは、やはり歴史ある劇団の力だろう。広すぎる舞台間口を、演技の場を景により使い分けていたが、下手の上間をもう少し狭めれば、上手座敷の重要な芝居がもっと生きたのではないか。

（担当 横浜小劇場）



横浜アマ連 合同公演

「ゴジラ」

9/28・29

テアトル・フォンテ

横浜五劇団の久々の合同公演。幕が上がるとデーんと構えた舞台装置が浮かび上がり、なにかが起ころる気配は充分である。

一ノ瀬家の長女やよいが結婚の相手に連れてきたのは、あの「ゴジラ」なのだから事は穏やかでない。おまけにモスラだの、ピグモンまで登場する。しかし現われたゴジラは人間の姿そのままの好青年。一ノ瀬家の家族はそれでもゴジラはゴジラだと受け入れない。打ちひしがれ、涙し、背を向け引き上げていく姿はあまりにも悲しく切ない幕切れ。

体質の異なる集団の合同公演のレパトリーとしては奇抜な企画か。その苦労が舞台のあちこちににじみでていて面白いのだが、やよいのキャラクター、レポーターの役割、役者の登退場、仕掛けの処理等に切れ間が目立ち、今いちテンポがあがらない。しかし高齢の観客が多い客席では、身を乗りだして見入っている姿が多く、若者だけが理解できるという誤差は無い舞台。次回への可能性を秘めた合同公演だったといえるだろう。

（担当 劇団川崎演劇塾）

特集
京浜協同劇団
伊藤知子

せが出来ばえに大きく影響し、稀に、キウリとイチゴでカレーを作ったおかしかったという敵かな感動を呼ぶ。
 造形的衣裳のルーツは能・歌舞伎にあると思われるが、最近CM・雑誌の表紙等では、ビニール素材や発泡スチロール・特殊ゴム・スプレー塗料などで作られたものも多い。魔女や創想上の動物・幻想や夢の世界にはミシンで縫う発想を大胆に捨てたいものだ。
 その後私は幸運にも映画の衣裳(時代劇着つけ)でなんと海外ロケまで行き、現在は二本の芝居を十二月に控えている。台本を読んで画を描くのはデザイナー一人で行う作業。でも画を衣裳にするのは、専門のアトリエに注文できない衣裳製作予算の実状では、ひたすら役者の裏方としての力量をたよりにするしかなく、デザイナー画に示された私のやりたい事と役者の技術と稽古のスケジュールの関係をデザインするの、今の状況では私の仕事の大きな部分を占めている。演出の想いと台本の示唆をたよりに、役者と四ツに組んで作業をする訳で、時に台本と無関係の役者個人の趣味にイライラし、私の指示ミスに「もう一回作って」と謝ったりと簡単には進まないけれど、創造を共有するという意味では、今のところ良い方法だと思つています。役者を良く知った上で、その衣裳を着て舞台に立つ役者の生理を理解し、衣裳に示された役の個性についてやりとりをすることが舞台の出来に大きく影響すると思うので。本音にむけての限られた時間の中で個々に対応してゆくのには本音に大変です。が、やりとりをそれこそが楽しいというのも本音。ただ、多人数多場面の芝居にこの方法は向かないし、時に役者個人のキヤラクターにひっぱられたデザインをしてしまう事が欠点。衣裳が決まり、役づくりに更なる拍車がかかっていく頃、私は忙しさが一段落し、急に寂しくなったりする。
 ある意味では、衣裳の「本番」は台本をどう読み、どんな舞台にしたのか考えている時にあり、設計図というデザイン画に大きく依拠する訳で、役者のノリのタイムスケジュールに乗るな!と自分を戒めている。
 稽古時間中に衣裳の話をする事が不可能な程、時間のない舞台づくりをせざるを得ない現状。大道具づくりをメインとして決まる道具スケジュールの中で、もう少し衣裳に目を向けてもらえたらと思います。

舞台衣裳

衣裳合わせのバードを分けてくれるは理想的。

多少の照明を用意してもらえばgood!

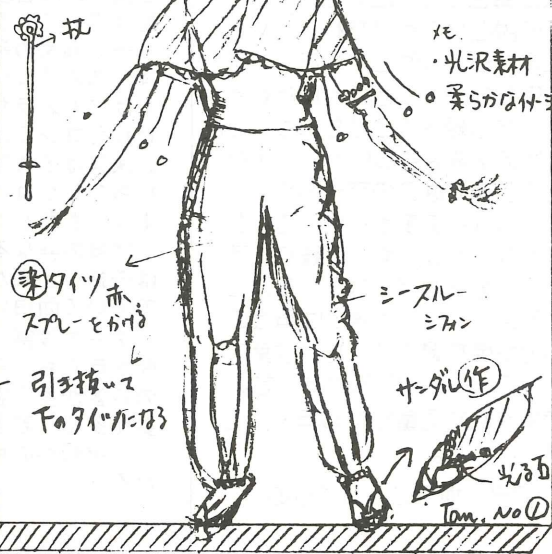
衣裳合わせの前日は良く寝て汗を頭で臨めば

更に理想的。可能かな...?

例えはこんなデザイン画

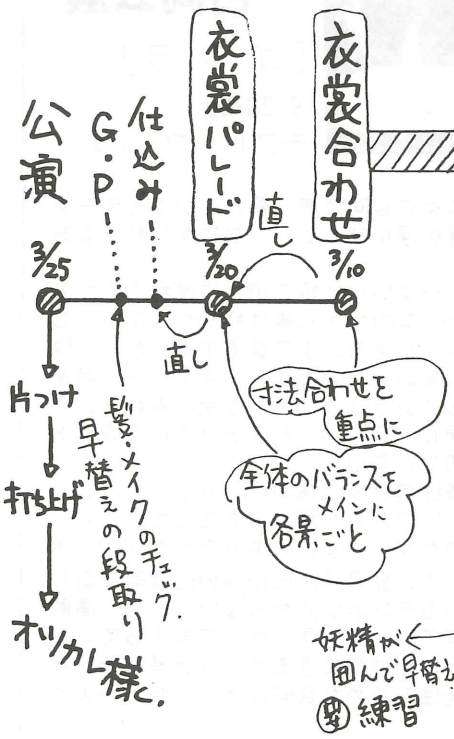
<大空は恋の物語>
 京浜協同劇団 三月公演
 役名(踊る女)
 役者名(杉本あずさ)

1幕 1景 ベル
 2景 脱衣
 裸 脚絆



車屋にも染めの得意なスタッフ。帽子作りのお姫も早く作。ちゃん。アイデアが豊かな人。スタッフはすぐ腕。信頼が大事。

材料あ
 ☆素材・色を決めた
 はきりにいれはま
 住生はいい。
 根気よく探せば
 「この布は私のために
 服 みるるヨ



衣裳デザイナーとは何する人ぞう？

「京浜協同劇団」という川崎の地域劇団に八年間所属していた私は、平成六年度文化庁芸術研修生として、舞台衣裳を学ぶ機会を得た。創造には絶対正しい方法など存在する訳がないけれど、いわゆるプロとか呼ばれる方々の仕事に接し、私の芝居感は大大きく変化したように思う。「衣裳とは何？」「舞台表現とは？」「衣裳スタッフがやるべき仕事は？」「様々な名作と実際の作業にもまねながら私なりに考えてきたことを、経歴を振り返りながらここにまとめてみようと思います。

芝居は総合芸術だからいろいろあつておもしろそうだと入団役者も裏方も両方やる方針が、実情か、まずは大道具へ。幕が降りるや否や、今の今まで立っていた舞台を自らなぐりてそれこそなぐり倒しちゃう。そのダイナミズムに大感動。これこそライブ！！が手袋姿をチャホヤされるも束の間、人数不足の小道具へ、それから衣裳部で「縫い子」をする。やがて衣裳チーフとなつて……

「平面である布から、肉体という曲線ばかりの立体に合うものを作るんだ！その上肉体は動く。更に、サイズは個々様々。服作りとはなんて三次元的で高度な世界なのかしら。衣裳は大道具より上だ。」なあんちゃつて、スゴイことを当時の団内紙に私は書いていた。

一方、手芸の世界に魅せられ、染織研究で二度インドへ渡る草木染めや手織りの村々を一人で訪ねて歩いた。

針一本でも服はできる。時間をかけ、着る人への思いをかけて作られた服、これこそ芸術。最後はどうきんとなつて、糸肖となつて消える服の姿。これぞ布のあるべき姿。あるべき生活文化。又々、「目から鱗」。

砂漠の乾いた空の下では澄んだ色が美しく映り、緋の里では日本と同じような湿度と水田の緑に包まれていた。この事は舞台衣裳がその戯曲の示す季節、地理環境を適確に表現するためのポイントと深く関連すると私は思っている。

その後、芸術研修生としてフリーで活躍中の舞台衣裳デザイナーのアシスタントとなる。新劇はもちろん、ミュージカルやオペラ、クラシックバレエもあつた。百着以上、百万円を超える衣裳製作費もあつたし、無と同じというのも、度々、あつた。その打ち合わせから初日に致るまでの一連の作業を、数作品同時進行させるというスケジュールの約一年間だった。「デザイナーとして大事なものは、それは丈夫な心と靴」研修終了時のお礼状に書いた。

その後イベントショーの衣裳・小道具製作の依頼がきた。この業界では、お客様を楽しませるためには何でもやれとばかりに新劇とは桁違いのお金と、普通を大きく外れた発想が投入されていく。私は、衣裳だけでどうすれば客をあつと言わせることができるかと考えたが、とにかく駒は全く役に立たない状態だった。今までに見たことのないものを創るという作業は、試行錯誤の連続で、時に錯誤ばかりで相当きつつけけれど、時に予想以上の妙にスゴイものができたりする。素材の組み合わせ

例えば2時間半からの芝居を約4冊
50~60回の稽古でやるとしたら。
衣裳は40点、7クリモの99点。
衣裳スタッフは5人の場合

京浜協同劇団 伊東 知子



時代の雰囲気や流行・制服や宗教服の規則・民俗的なことを調べます。
あとにクリモと下着、西せりまから

← 戯曲の読み込みと資料あめの期間 →

例えばこんなスケジュール

衣裳プラン完成

1/20 打ち帳を回収して役者との打ち合わせ

デザイン画提出(色つき)

1/16 修正

ラフプランによる話し合い、立ち稽古スタート
(写真やスケッチ)

舞踏の色はどんな感じですか？
象徴的？
具体的？
誇張的？
造型的？

付け帳の配布

1/6 キャスト発表
本キャストによる読み
スタッフ会議

役者の顔と体型
をすばやくCatch

奇抜で突飛的なアイデアを出し合ってイメージの打ち合わせをモロイ。

注) 買物と清拭のクリモのか、貸りるのかで予算は大違い

1/30 予算会議
スタッフ顔合わせ

1/31 初顔合わせ
読み稽古

とは？

衣裳製作 START!
打ち合わせ
打ち合わせ
打ち合わせ

